

# 神奈川県高等学校体育連盟バドミントン専門部

## 参加者及び運営者（顧問、指導者）が練習や大会参加時に注意する場合の共通事項

本共通事項は、「主催大会等実施に係る感染症防止ガイドライン（神奈川県高等学校体育連盟）」および「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン（日本バドミントン協会）」より、参加者（生徒）及び運営者（顧問・指導者）が練習や大会参加時に、特に注意すべき事項について、抜粋・加筆等したものです。必ず各ガイドラインを熟読の上、取り組んでいただきたく、お願い申し上げます。

顧問・指導者の方は、感染拡大防止を第一に考え、活動を行ってください。

### 1 健康観察を実施する

- 1) 自宅で検温を必ず行い、次の諸症状がみられる場合は参加を取りやめる。
  - ①咳、くしゃみ、のどの痛み、37.5度以上、または平熱 +1℃ 以上の発熱
  - ②倦怠感（だるさ）や息苦しさ
  - ③味覚や嗅覚の異常
  - ④同居家族や近親者に新型コロナウイルスに感染又は感染が疑われる状況がある場合
- 2) 上記についての健康観察（学校で実施している場合はそれを使う）を毎日実施する。
- 3) 練習や大会参加後2週間以内に新型コロナウイルス感染者が出た場合、大会時は関係する機関へ速やかに報告し、同時に濃厚接触者の有無を確認する。それ以降は保健所、医療機関の指示に従う。  
※新型コロナウイルス感染症を罹患及び罹患の疑いがある場合の対応については、別紙4を参照。

### 2 マスクを持参し、着用する

- 1) プレー中以外（移動中、受付時、待機時、着替え時等）はマスクを着用する。
- 2) プレー中にマスクを本人が着用することを希望する場合、それを妨げることはないが、バドミントンの競技特性から、十分に呼吸ができなくなることで体調に好ましくない影響を与えることがあることを伝え、留意する。
- 3) マスク内の温度の上昇を伴い、熱中症を引き起こすリスクが大きくなることから、いつも以上にこまめに水分補給を行う。 ※水分補給は適度な塩分等ミネラル分を含むものが望ましい。
- 4) 顧問、指導者、大会役員等は原則マスクまたはフェイスシールドを着用する。
- 5) 咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえることを咳エチケットとして徹底させる。
- 6) 屋外等でフィジカルディスタンスが十分に確保できる状況においては、熱中症や体調不良にならないようマスクを外すことを妨げない。

### 3 手洗い、うがい、アルコール消毒等を徹底する

- 1) 体育館入退館時には必ず手洗い（石鹸を使って30秒以上）やアルコール消毒等をする。
- 2) 練習終了後、できれば休憩時にも手洗いやアルコール消毒等を行う。

### 4 他者との距離を常に意識して行動する（介助や誘導の必要な場合は除く）

- 1) フィジカルディスタンスを保つ。（2mを原則とし、最低でも1m離れる）
- 2) 試合前のチームミーティング（集合、アドバイス）についても、当面は行わないものとする。
- 3) 開会式・閉会式は行わず、必要な連絡事項はプリントなどで周知する。
- 4) 会話をする場合はマスクを着用し、可能な限り対面で話さない。

- 5) ハイタッチや握手の禁止。一部エルボータッチやシューズタッチ等の動作が紹介されているが、距離が近くなることからこれらも行わない。
- 6) 飲食時なども密になることや対面になることを避け、会話もできるだけ控える。
- 7) 練習や大会会場までの移動手段として、自家用自動車にチームメイトを同乗させたり、マイクロバスやミニバンを使ったりの移動はしない。

## 5 ウィルスが滞留しないよう積極的に換気を行う

- 1) 体育館は密閉空間となりやすいので、支障のない範囲で開けることができる窓については開け、空気の流れ道を作り、滞留しないように心がける。
- 2) マッチ中であっても、定期的に関閉可能な窓やドアを全開して換気する。目安として30分～90分に1度は必ず換気する。
- 3) 換気扇や送風機などがある場合は、競技に支障がないようにしながらも積極的に使用する。

## 6 大会応援・練習方法等を工夫する

- 1) 応援は拍手を基本とし、大きな声を出しての会話や応援(声援)は飛沫防止の観点から極力控えるよう心掛ける。
- 2) インターバル時のアドバイスは、その制限時間を正しく守って行いが、可能な限り短時間で済ませる。なおその際も横並びで行い、フィジカルディスタンスを取って行う。
- 3) 効率を上げる練習形式は「密」となる可能性が大きいので、当面は感染防止対策を優先した練習メニューを実施すること。
- 4) 自粛期間が長かったことから、練習の強度については段階的に上げていくものとする。  
※新入生については、さらにフィジカル面で低下していると考えられるため、計画的に取り組むよう指導する。

## 7 道具、物品の扱いについて注意する

- 1) ラケットやシューズの貸し借りの禁止。持参したラケットの破損などで、他者から借りざるを得ない場合等は使用の前後にアルコール消毒を行う。
- 2) 飲み物の回し飲み、タオルの共有の禁止。水分補給のドリンクタンク等の利用はせず、必ず各自が自分専用の物を準備する。
- 3) 使用した各自の着衣も必ずビニール袋等で密封をしてそれぞれで持ち帰る
- 4) コート設営、片付けなどは少人数で行う。(ポール、ネットを運ぶ人、モップを扱う人、シャトルを集める人などを固定または輪番で行う)
- 5) 練習に必要な共用物品や床やシャトルを触った手で目、鼻、口を触らない。
- 6) 鼻水や唾液が付いていると思われるゴミは各自で準備するビニール袋に入れて密封して持ち帰る。その他のゴミや飲み残したドリンク類についても放置や廃棄せずに必ず持ち帰る。
- 7) シャトルの受け渡しの際にラケットを使用して手を極力使わないようにし、シャトルやシャトルに触れた手を顔に近づけないようにする。
- 8) シャトルは消毒が困難なため、複数の者が同じシャトルを使用することを避けるように努める。

## 8 毎日の練習の出席簿、大会参加者の名簿を作成する

- 1) 練習や大会参加後2週間以内に新型コロナウイルス感染者が出た場合、保健所や医療機関に提出して感染経路をたどるために必要とされるので、必ず作成する。
- 2) 上記については個人情報が含まれる場合があるので、参加者にはその旨説明し理解を得る。
- 3) 名簿について、最低1か月はそれぞれにおいて担当を任される者が保管しておく。

- 4) 大会が始まってから発熱や体調不良が認められた場合は、その時点でのメンバー変更を認める。  
(個人戦のメンバー変更は認めない) 発熱した選手は別に隔離し、保護者に連絡した後に帰宅してもらう。可能な限り保護者の迎えを依頼する。
- 5) 練習開始後に発熱や体調不良等で感染の疑いがあると判断できる場合は、練習全体を中止し速やかに帰宅させ、待機させるとともに管理職へ報告する。その後の措置については当該校長の指示に従う。

#### 9 通常練習に戻るまで工夫を続ける

- 1) コートに入ることができる人数を最大4名までとすることが望ましい。
- 2) ラケットバッグや個人の荷物などは必要最低限の量にして、1か所にまとめておくことはしない。
- 3) 参加者を複数のグループに分けて、それぞれに対してメニューを作成し、事前にアナウンスするなどして、密になる時間を少なくし、フィジカルディスタンスを確保しやすくする。
- 4) 練習場所にフィジカルディスタンスの目安となるような目印を床等に張り、参加者が意識しやすい環境を作る。
- 5) 高い練習強度を最初から求めずに、暑熱順化を含めて体が慣れてくるまでは強度を押さえて実施する。全体の練習時間も最大3時間以内を目途に再開する。
- 6) 入梅以降の季節は、蒸し暑さから集中力が低下しやすくなるので、怪我の防止のためにも、指導者が観察を怠らないようにする。
- 7) 日本バドミントンメーカー会、日本バドミントン専門店会が監修する「サイレントバドミントン」冊子、及び動画などを参考にし、指導者・選手が共通認識で取り組むことを勧める。

#### 10 大会開催のための注意事項を理解する

- 1) 当面の間、無観客試合とする。ただし、3年生および3年生の保護者については、以下の通り配慮する。  
また、各会場の判断を優先するものとし、感染状況等を勘案して別に判断することがある。
  - ア. 学校対抗(団体戦)の参加生徒  
参加申込書にある選手7名、マネージャー1名、補助役員2名(1、2年生も可)に加え、応援生徒として3年生8名とする。  
※応援生徒の3年生がこれを超える場合、必ず事前に各地区常任委員へ相談すること。
  - イ. 個人対抗(個人戦)の参加生徒  
選手1名/1組のとき、補助役員3名(1、2年生も可)に加え、応援生徒として3年生7名とする。  
選手2名/2組のとき、補助役員6名(1、2年生も可)に加え、応援生徒として3年生4名とする。  
※応援生徒の3年生がこれを超える場合、必ず事前に各地区常任委員へ相談すること。
  - ウ. 該当の大会に出場する3年生の選手1名に対し保護者1名の来場を認める。
- 2) 参加生徒(選手・マネージャー・補助役員・応援生徒)および来場する保護者は、健康チェックシート(別紙1)を各学校の顧問へ提出する。  
各顧問は健康状態を把握、来場可否を判断し、少なくとも30日以上保管し、期日経過後は各学校において、責任を持って適切に廃棄処分する。  
※各学校の顧問は、来場する保護者に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に伴う大会の観覧に向けたお願い(別紙5)を別紙1とともに配布すること。
- 3) 各学校の顧問は、提出された健康チェックシートを確認し、当日の参加者(生徒、保護者、顧問、コーチ等)の健康上状況を把握した上で、参加校状況報告書(別紙2)を作成し専門部(会場運営役員)へ提出する。
- 4) 専門部(会場運営役員)は、参加者の体調を、提出された参加校状況報告書により確認する。  
また、顧問、コーチ、役員健康状態を把握した一覧として、大会役員健康状況チェックシート(別紙3)を作成する。別紙2および3は専門部が、少なくとも30日以上保管し、期日経過後は責任を持って適切に廃棄処分する。

- 5) 審判については原則『互い審』とする。主審、線審2名（1名は得点係を兼ねる）を対戦校同士で出し合う。  
サービスジャッジはつけないものとする。
- 6) 学校対抗（団体戦）時の挨拶は監督と第1ダブルス代表選手のみで行う。握手はしない。個人対抗（個人戦）を含め、各マッチ前のコイントスもフィジカルディスタンスを確保するためにネットを挟んで行う。
- 7) 学校対抗（個人戦）のベンチは原則として設けない。線審用の椅子などは担当が変わるごとに消毒をする。  
コーチ席は1つまたは置かない。
- 8) コートサイドにカゴやドリンクケースは置かない。各自のラケットバッグ等用いて飲み物、タオルはすべてその中に入れること。
- 9) 選手同士の士気をあげるための『円陣』やコート内でのミーティングは行わないこと。
- 10) 大会会場で、卓球場等を利用した更衣・待機スペースは利用しない（更衣及び荷物置場としてのみ利用可とする）。
- 11) 試合がない時は屋外等の『3密（密閉、密集、密接）』をクリアできるところで待機する。特に昼食時は密になりやすいので留意する。雨天時は会場校の実態にあわせる。（大会本部、会場運営役員の指示に従う）  
※参加生徒（選手・マネージャー・補助役員・応援生徒）および保護者は、各試合の終了後に速やかに体育館の外へ退出する。退出を確認し、次の試合の参加生徒と保護者は入場する。
- 12) ~~大会時~~一体育館内の動線をよくするために、出入り口は最低2カ所設け、入口専用、出口専用とする。
- 13) 学校対抗（団体戦）においては、試合進行をスムーズにするため、待機チームのオーダー提出が滞ることのないようにする。
- 14) 引率顧問・役員は定期的に待機場所、昼食場所を巡回し、感染症防止の徹底を図る。

## バドミントン活動時のチェックリスト

### 活動前

- 練習施設までの移動時のマスク着用を徹底する
- 自宅で検温を行う。体調など気になることがある場合は練習前にも検温を行う。  
参加する場合においても体調に不安のないことを確認の上、指導者に報告をする  
(体調は個人差があります。無理に参加をしないこと)
- 指導者は参加者全員の表情や体調を確認してから練習を実施する  
(発熱者や体調不良者は練習に参加させない)
- ネットやポストなどコート設営は最小人数で準備を行い、使用の度に設備の消毒を行う
- タオルやドリンクは個人のもを用意し、教養物品については必ず消毒を行う
- 練習開始前は換気を積極的に行う

### 活動中

- 練習時に選手・部員同士が「密」になっていないか常に注意し、気が付いたら声をかける
- マスクはコート内練習以外ではなるべく着用する
- ネットやポストなどの設備には不用意に触れない
- コートに入っていない時、フィジカルディスタンスを維持する  
(参考までにラケット2本分で約1.3m、3本分で約2m)
- 手を使ってのシャトルの受け渡しは極力行わず、ラケットを用いて行う
- シャトルを顔(目、鼻、口)に近づけない
- 他者の荷物(タオルやドリンク、衣類、バッグ等含む)には触らない
- 換気を定期的に行う

### 活動後

- ネットやポストなど共用物品の消毒を行い、最小人数で片づける  
(終了後の手洗いを、石鹸などを用いて必ず行う。)
- 飲み残しのドリンクは、活動場所に廃棄することはせずに、自宅に持ち帰り処理をする
- 帰宅経路中のマスク着用を徹底する
- 練習参加者の氏名・連絡先を記録し、健康観察報告書として1か月は保管する

※指導者の方は、感染拡大防止を第一に考え、活動を行ってください。